

トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム  
個人研究助成 D16-R-0344

実施報告書

# 「暮らしの目線」に見るフィールド研究の感性 —映像メディアを活かす超学際研究の表現形の探究—

澤崎 賢一

一般社団法人リビング・モンタージュ 代表理事

## 目次

1. 略歴・実績	・ ・ ・ ・ ・	p5
2. プロジェクトの概要	・ ・ ・ ・	p6
3. プロジェクトの成果	・ ・ ・ ・	p8
1. プロジェクト「暮らしのモニタージュ」の設立、および公式YouTubeの開設	・ ・ ・	p8
2. 「暮らしの目線」でフィールド調査を記録した映像作品の制作	・ ・ ・ ・ ・	p10
3. 学会、講演会、展示会、ウェブサイトでの映像活用の事例	・ ・ ・ ・ ・	p13
4. 口頭発表、連載記事など	・ ・ ・ ・ ・	p14
5. 調査研究活動	・ ・ ・	p15
4. 今後の課題と展開	・ ・ ・ ・	p16
5. 実績一覧	・ ・ ・ ・ ・	p17





## 1. 略歴・実績

### 澤崎 賢一

アーティスト／映像作家。一般社団法人リビング・モンタージュ代表理事。京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程在籍。2007年に岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーを修了後、2008年に株式会社インターナカツが主催する公募展「JEANSFACTORY ART AWARD 2008」にて、出品作「日常としての表象+作品後」が、審査員の森村泰昌氏、松本俊夫氏、宇川直宏氏らの高い評価を受け、グランプリ M 賞を受賞。これをきっかけにアーティスト／映像作家として活動を始める。2015年には、スイスのシエールにあるアーティスト・イン・レジデンス The Villa Ruffieux にて、2ヶ月間の滞在制作を行い、その成果として個展「Linguistic Montage」(MAXXX - Project Space、シエール、スイス、2015年)を開催。



主な展覧会として、企画展「フェスティバル・リルケ」(Fondation Rilke、シエール、スイス、2016年)、Kenichi Sawazaki×Thomas Mailaender「Domestic Archaeology」(GALLERY TERRA TOKYO、東京、2013年)、公募展「Celeste Prize」(ex-Bibli、ローマ、2013年)、企画展「Kawaii」(CAMP Contemporary Art Meeting Point、アテネ、2013年)、企画展「Art Court Frontier 2013」(ARTCOURT Gallery、大阪、2013年)、個展「さかいにはさま、る しんこうけい」(GALLERY TERRA TOKYO、東京、2012年)など。

さらに、2016年には、フランスの庭師ジル・クレマンの活動を記録した長編ドキュメンタリー映画《動いている庭》(<http://garden-in-movement.com/>)を監督。本作は、劇場公開映画として「第8回恵比寿映像祭」(恵比寿ガーデンシネマ、2016年)にて初公開され、その後も現在に至るまで立誠シネマ(京都、2017年)、第七藝術劇場(大阪、2017年)、神戸アートビレッジセンター(神戸、2018年2月)、池袋シネマ・ロサ(東京、2018年4月)などで劇場公開、また高知県立牧野植物園(高知、2017年)やアート・フェスティバル「Lieux Mouvants」(フランス、2017年)など、世界各地で多数上映された。

ドキュメンタリー映画《動いている庭》の制作をきっかけに、近年は、主にヨーロッパ・アジア・アフリカで、研究者や専門家たちのフィールド調査に同行し、彼らの視点を介して、多様な暮らしのあり方を映像人類学や民族誌映画的観点から記録した映像作品を制作している。撮影した映像素材を活かした新しいプロジェクト「暮らしのモンタージュ」(<http://livingmontage.com>)を展開するために、2018年4月に研究者たちと一般社団法人リビング・モンタージュを設立、代表理事に就任する。

関連する活動として、記録映像《昭和の作庭記 -森蘊の足跡を辿る-》(日本 | 56分 | 2019年)、記録映像《貧困の連鎖を断ち切る ～ベトナム・フエ市での学習支援～》(日本・ベトナム | 14分 | 2018年)、記録映像《世界農業遺産へ 東ティモール、エゴ・レモスと共に》(日本・東ティモール | 32分 | 2017年)、記録映像《なつかしい未来》(日本 | 75分 | 2017年)などを制作。また、「第1回 地球研・北大 TD VISUALIZATION ワークショップ」(北海道大学 工学系教育研究センター、2017年)に登壇し超学際研究に貢献、その他学会や展示会などに映像作品を提供するなど、各研究者と共同でさまざまな議論を展開。他にも関連する企画として、web マガジン「シネフィル」([http://cinofil.tokyo/\\_users/16915019](http://cinofil.tokyo/_users/16915019))にて、アジア・アフリカ各地での撮影現場の出来事を綴った連載 澤崎賢一「暮らしのモンタージュ」を連載中。

上記以外の主な賞・助成金として、トヨタ財団 個人研究助成(2017-2018年)、Apple 社が提供する iTunesU 特集「Best of 2016」選出、京都府文化力チャレンジ(2016年)、アーティスト・イン・レジデンス Combaz7(スイス)より助成金(2015年)、アーティスト・イン・レジデンス The Villa Ruffieux(スイス)より助成金(2015年)、公募「Celeste Prize 2013(イタリア)」ファイナリストに選出など多数。

## 2. プロジェクトの概要

### 1. 企画題名

「暮らしの目線」に見るフィールド研究の感性—映像メディアを活かす超学際研究の表現形の探究—

### 2. 実施期間

2017年5月-2019年4月

### 3. 企画内容

#### (1) 研究背景

これまでアーティスト／映像作家として活動してきた本研究の実施者は、近年、映像メディアを活用して、「研究者のフィールド調査に垣間見られる潜在性をいかにして捉えるか」を実践的に研究してきた。本研究の契機は、実施者が監督したフランスの庭師ジル・クレマンの活動を記録した劇場公開映画《動いている庭》および記録映像《ジル・クレマン連続講演会》<sup>1)</sup>の製作にある。自然に寄り添い、かたちづくりられ、変化し続ける彼の庭は、従来の自然と文化を截然と切り離す二分法に基づく思考の再構成を促すものである。これらは、映像独特の「暮らしの目線」からの記録でもあり、暮らしに垣間みられる資源・生態環境への慎み深い思慮や態度、自然との共生と自己表現の両立可能性などの潜在性を表現することができた。これをきっかけに、人間活動を映像独自の「暮らしの目線」から記録することの可能性を研究するために、トヨタ財団の個人研究助成を受け、アジア・アフリカ各地で調査を行う研究者のフィールドを映像で記録することとなった。



劇場公開映画《動いている庭》  
<http://garden-in-movement.com/>

#### (2) 問題点

実施者が記録してきたアジアやアフリカのフィールド調査の現場の多くは、人間生存のための生業や開発が資源・生態環境を刻々と蝕みつつあるなど、時限を帯びて深刻化する諸問題に直面している。他方で、調査過程を「暮らしの目線」から眺めると、依然として存在する多様な文化や社会、生業体、在来知、人びとの活力などに、諸問題の解決やありうべき未来社会の形成に向けた潜在性を見出すことができる。しかし、従来研究の論文を中心とする表現だけでは、それら潜在性を十分に表現できていないのではないか。

#### (3) 解決方策

資源・生態環境を蝕む急激で過剰な破壊を抑制するのは、資源・生態環境への人びとの慎み深い思慮や態度—端的には「畏れ・敬意」—ではないか。この感性(在来知の潜在性)を最も多感的に捉え、広く共有することができる映像表現によって、その潜在性を活かすことのできる専門領域を乗り越えた方途を形成し、提案する。

#### (4) 研究目的

① アジア・アフリカ・日本各地を対象地に、これまでの学術研究で表現されてこなかった「研究者とそれ」に呼応する人びとの感性やひらめき、洞察」を映像によって表現するための手法を構築する。

② ①を含む「暮らしの目線」から人びとの心象風景や地域の実態を捉え、自然との共生を文化に織り込む芸術表現の実現、また開発支援や生態系・生物多様性の保全などの社会実践の一助となることを目指す。

## (5) 研究方法

- ① 研究者のフィールド調査に同行し、調査風景のみならず旅程全体をできるだけまるごと映像で記録していく。同時に、映像独自の時間の流れの中で、最も在来知の潜在性を表現できる編集手法を探っていく。
- ② 芸術表現と社会実践を同時に実現するために、記録した映像を「①映像作品」と「②映像教材」として、研究者が所属する機関のワークショップや講演会、また YouTube や iTunesU で発信する。
  - (a) 映像作品：文化の記録と芸術表現の両立を探りながら、課題の共有に必要な言語化以前の感情を鑑賞者の心に深く刻みこむ芸術的表現として映像を制作する。
  - (b) 映像教材：調査内容をわかりやすく説明すると共に、多様な専門領域を持つ研究者の活動を包括的に結び付け、「反転授業」などで活用できる映像教材として研究者と共同でまとめる。

## (6) 特色と独創的な点

- ① 「暮らしの目線」でフィールド調査を記録することで、研究者や人びとの想いを伝える  
従来の学術研究の過程では、映像での記録は基本的に研究調査の補足的な役割に留まってきた。本研究の特色は、研究成果として通常は表に見えてこないが、現場での課題解決のために重要な要素である研究者や人びとの想いを、対象地の多様な資源・生態環境と共に映像で記録し、その価値を見出す点にある。そこで蓄積される多様な学術知見と経験は、新たな学術領域の形成への具体的なコンテンツと教育・社会実践に機動力を与える。
- ② 映像メディアの領域横断的方法論を応用した成果発信のための新たな表現形を探求する  
近年、人類学者が映像などを活用した研究成果の発信を行う動きがある。たとえば、美学と民族誌学との革新的な連携を推進するハーバード大学の「感覚民族誌学ラボ」では、研究成果として、映画、ビデオアートなど感性に働きかけることを重視した成果物が制作されている。  
同時に、芸術領域では、教育理論、社会学、人類学など、様々な分野の研究成果を活用しながらプロジェクトを組み立て、コミュニティと深く関わり、社会変革を目指す活動がある。近年のソーシャリー・エンゲイジド・アート(パブロ・エルゲラ, 2011)はその代表的な事例だが、彼らの活動は美学的観点よりも、むしろいかに社会に働きかけるかを重視している。ゆえに彼らの表現は、説明的なアーカイブとして映像や写真、テキストなどを掲示することが多い。  
いずれのケースにおいても、映像が果たす役割は大きく、芸術と人類学の双方がその専門性において欠けていた要素を映像メディアによって補おうとしているようにも取れる。  
本研究の独創性は、彼らの課題を継承しつつ、研究者のフィールド調査を美学的かつ科学的に記録し、映像メディアを領域横断的に活用することで、感性に訴える芸術表現と具体的な問題解決のための社会実践の両者を同時に実現するような学際的手法による新たな表現形を探求する点にある。

---

- [1] 映画《動いている庭》(澤崎賢一監督作品 | 日本・フランス | 85分 | 2016年)は、劇場公開映画として「第8回恵比寿映像祭」(恵比寿ガーデンシネマ, 2016年)にて初公開され、現在に至るまで国内外の映画館などで劇場公開され、広く一般に未来社会の形成に向けた潜在性を提示した。記録映像《ジル・クレマン連続講演会》(日本 | 26分 | 2015年)は、総合地球環境学研究所の映像教材として制作され、Apple社が提供する iTunes U Best of 2016 に選出されるなど、研究活動を端的に補足する以上の訴求力で成果還元に貢献した。並行して、関係者による数多くのトークやレクチャーを開催し、それぞれの立場で映像から得た知見を深める機会を設けた。

### 3. プロジェクトの成果

#### 1. プロジェクト「暮らしのモンタージュ」の設立、および公式 YouTube の開設

映像を活用した超学際的研究手法を創出するためのプラットフォームとして一般社団法人リビング・モンタージュを設立し、研究者やアーティストらと共にプロジェクト「暮らしのモンタージュ」を立ち上げた。また、制作する映像作品を広く一般に公開するために、公式 YouTube を開設した。

##### (1) 「暮らしのモンタージュ」について

プロジェクト「暮らしのモンタージュ」は、実施者が代表理事を務める一般社団法人リビング・モンタージュが運営するプロジェクトであり、学術研究の「余白」を捉え共有するための方法論を社会実践として試行し、展開するものである。

プロジェクトでは、研究者のアジア・アフリカ各地でのフィールド調査を映像で記録し、記録した映像素材を活かした成果共有の在り方を関係者と議論しながら試行していく。問題解決へは、活動の場と機会をできるだけ多く共有し、そこから生まれる研究者とアーティストとの異文化・異専門性の相互触媒的な再編を誘起することが第一段階となる。

その上で、フィールドと研究者の「あいだ」において、人類学や芸術における「創造的な関係性」をともなう視点からフィールド研究者／地域社会と深い関係を築き、調査過程における関係性やネゴシエーション、葛藤や悩みなどの感情とともに研究活動を感性豊かに映像で捉えることで、人類学や芸術における問題のみならず農学、開発学、歴史学などの専門領域を「生の文脈」により接続したい。

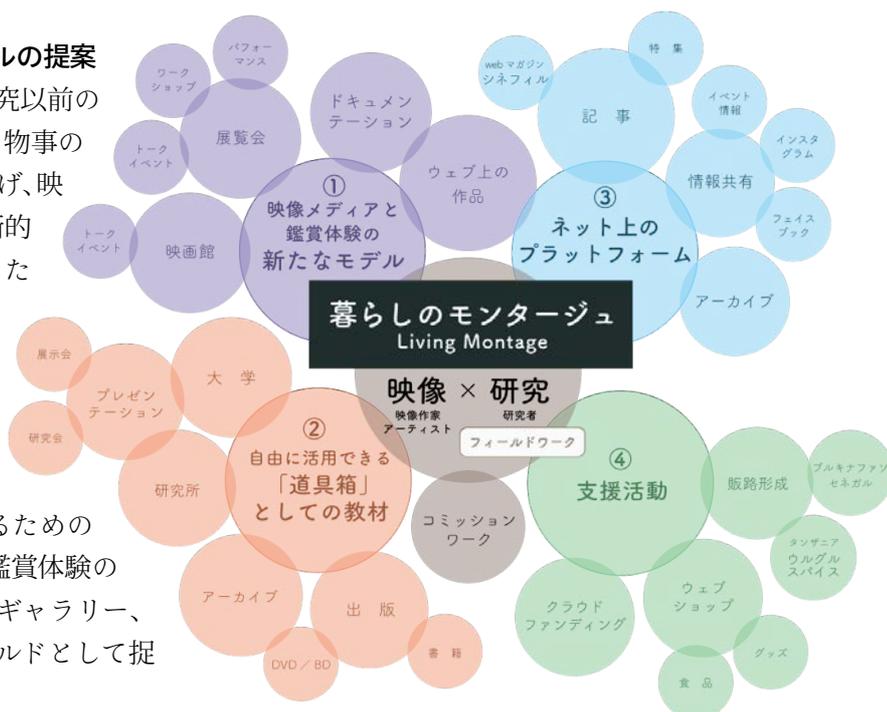
本プロジェクトの成果物は、「①映像メディアと鑑賞体験の新たなモデルの提案」、「②自由に活用できる「道具箱」としての教材の作成」、「③ネット上のプラットフォームによる繋がり作り」、「④社会実践への展開」として発信する。以下、各成果物の内容およびプロジェクトに関わる研究者やアーティスト／デザイナーについて述べる。



「暮らしのモンタージュ」公式ウェブサイト  
<https://livingmontage.com>

##### ① 映像メディアと鑑賞体験の新たなモデルの提案

研究者のフィールド調査に同行し、研究以前の段階を含めて、「暮らし」の現場における物事の微細なニュアンスを多様なままに拾い上げ、映像で記録する。そして、文化の記録と芸術的表現の両立を探りながら、映像を駆使した芸術作品を制作する。成果物は、(一社)リビング・モンタージュ主催での展覧会開催、国内外の映画館での上映、さらに既存の形式のみでまとめるのではなく、アート・ドキュメンテーション(ボリス・グロイス, 2003)=作品に「生」を付与するための「記録行為」に着目した映像メディアと鑑賞体験の新たなモデルとして提示する。そこからギャラリー、映画館、美術館などを人類学的なフィールドとして捉え直す視線も可能となる。



## ② 自由に活用できる「工具箱」としての教材の作成

専門領域の知を多感覚的に伝える「映像を活かした装置」として研究成果をまとめ、人々が自由に活用できる「工具箱」として研究者と共同で教材を開発する。これにより、人と自然の関わりを学ぶための教育活動に関する、専門分野を乗り越えた市民科学に繋がる新たな研究構築を目指す。また、研究過程を共有できるという映像メディアの特性を活かし、関係者間での映像によるフィードバックを随時行っていく。

## ③ ネット上のプラットフォームによる繋がり作り

活動紹介や連載記事、YouTubeを活用した実験的な芸術表現など、ネット上の「場」を介し人々が間接的に出会い、様々なアイデアを実現するためのプラットフォームとして活用する。

## ④ 社会実践への展開

貧困などの問題を抱えるアジア・アフリカ各地の人々と関係を築くなかで、彼らの生業への支援活動は重要である。例えば、田中樹が取り組むタンザニア山間地脆弱環境での香辛料作物ベースの生業の創成を支援するために、映像素材を活かした販路形成やブランド形成を行う。

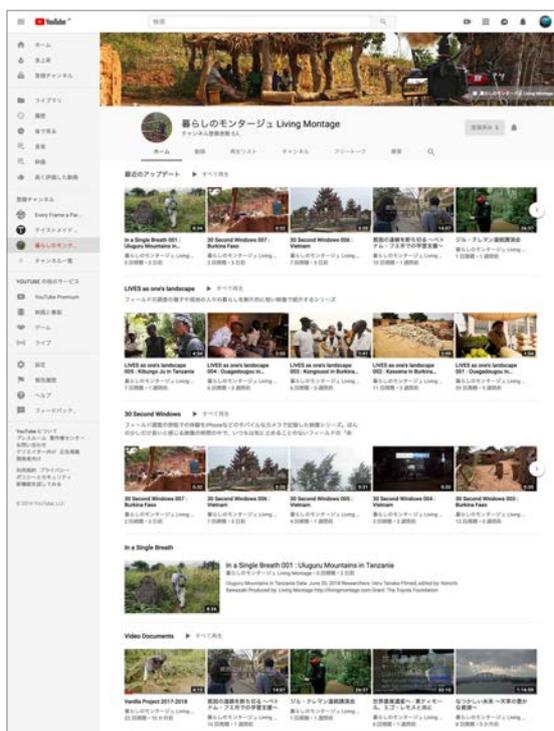
## (2) 「暮らしのモンタージュ」構成メンバー

企画／運営	一般社団法人リビング・モンタージュ 〒606-0862 京都市左京区下鴨本町 12 カワミビル 203 E-mail: info.livingmontage@gmail.com
代表理事	澤崎 賢一(アーティスト／映像作家)
理事	田中 樹(総合地球環境学研究所・客員教授／ベトナム・フエ大学名誉教授)
プロジェクトに関わる研究者	石山 俊(国立民族学博物館 プロジェクト研究員) エマニュエル・マレス(京都産業大学 准教授) 清水 貴夫(アフリカ・アジア現代文化研究センター 設立準備室) 真貝 理香(総合地球環境学研究所 プロジェクト研究員) 須田 征志(一般財団法人 地球・人間環境フォーラム プロジェクト研究員) 寺田 匡宏(総合地球環境学研究所 客員准教授) 三村 豊(総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター 研究推進支援員) 宮崎 英寿(一般財団法人 地球・人間環境フォーラム 企画調査部フェロー)
プロジェクトに関わるデザイナー／アーティスト	いそかわ あき(デザイナー) 荻谷 昌江(アーティスト) ステイファニ・ブラザーズ(映像作家／パフォーマー) ベ・サンスン(アーティスト) マイケル・ウィッテル(アーティスト) 和出 伸一(アーティスト)
助成	公益財団法人 トヨタ財団

### (3) 「暮らしのモンタージュ」公式 YouTube の開設

プロジェクト「暮らしのモンタージュ」において制作される映像作品や映像教材を広く一般に発信していくために、公式 YouTube を開設した。本研究の具体的な成果として、フィールド調査をさまざまな手法で切り取った記録映像シリーズ《LIVES as one's landscape》、《30 Second Windows》、《In a Single Breath》などを十数本公開した。また、記録映像として《貧困の連鎖を断ち切る ～ベトナム・フエ市での学習支援～》や《怒田集落 -地域の「ための」民謡づくり- 「たらしめことば」の語りとアートの実践》を公開した。今後も継続して映像を公開していく予定である。

本研究の成果のみならず、これまでプロジェクト「暮らしのモンタージュ」に関連して制作されてきた映像作品や映像教材も公開している。それらの成果について詳細には触れないが(「5. 実績一覧」にてタイトルなど一部を説明)、本研究と同様、研究者のフィールド調査を記録した映像を活かした作品群となっている。



「暮らしのモンタージュ」公式 YouTube

## 2. 「暮らしの目線」でフィールド調査を記録した映像作品の制作

### (1) 記録映像シリーズ《LIVES as one's landscape》

アジア・アフリカでのフィールド調査の様子や現地の人々の暮らしを場所ごとにまとめ、短い映像で断片的に紹介するシリーズ。YouTube のみならず、各種学会や展示会、講演会などで活用された。この映像シリーズは、今後も継続して制作し、YouTube で公開していく。



#### ① 《LIVES as one's landscape 001 : Ouagadougou in Burkina Faso》 HD, 2分

Date: December 14, 2016 | Researchers: Takao Shimizu, Hidetoshi Miyazaki  
 Filmed, edited by: Kenichi Sawazaki | Produced by: Living Montage  
 Co-produced by: RIHN Project "Desertification and Livelihood in Semi-Arid Afro-Eurasia"  
 Grant: The Toyota Foundation

② 《LIVES as one's landscape 002 : Kassena in Burkina Faso》 HD, 2 分

Date: December 16 - 17, 2016 | Researchers: Takao Shimizu, Hidetoshi Miyazaki  
Filmed, edited by: Kenichi Sawazaki | Produced by: Living Montage  
Co-produced by: RIHN Project "Desertification and Livelihood in Semi-Arid Afro-Eurasia"  
Grant: The Toyota Foundation

③ 《LIVES as one's landscape 003 : Kongoussi in Burkina Faso》 HD, 1 分 40 秒

Date: December 13, 2016 | Researchers: Takao Shimizu, Hidetoshi Miyazaki  
Filmed, edited by: Kenichi Sawazaki | Produced by: Living Montage  
Co-produced by: RIHN Project "Desertification and Livelihood in Semi-Arid Afro-Eurasia"  
Grant: The Toyota Foundation

④ 《LIVES as one's landscape 004 : Ouagadougou in Burkina Faso》 HD, 2 分

Date: December 22, 2016 | Researchers: Takao Shimizu  
Filmed, edited by: Kenichi Sawazaki | Produced by: Living Montage  
Co-produced by: RIHN Project "Desertification and Livelihood in Semi-Arid Afro-Eurasia"  
Grant: The Toyota Foundation

⑤ 《LIVES as one's landscape 005 : Kibungo Ju in Tanzania》 HD, 5 分

Date: August 9, 2017 | Researchers: Ueru Tanaka, Masashi Suda  
Filmed, edited by: Kenichi Sawazaki | Produced by: Living Montage  
Grant: The Toyota Foundation

⑥ 《LIVES as one's landscape 006 : Olkaria in Kenya》 HD, 5 分 25 秒

Date: October 12, 2016 | Researchers: Ueru Tanaka, Koki Teshirogi  
Filmed, edited by: Kenichi Sawazaki | Produced by: Living Montage  
Co-produced by: RIHN Project "Desertification and Livelihood in Semi-Arid Afro-Eurasia"  
Grant: The Toyota Foundation

## (2) 記録映像シリーズ 《30 Second Windows》

アジア・アフリカでのフィールド調査の旅程での体験を iPhone などのモバイルなカメラで記録した映像シリーズ。ほんの少しだけ長いと感じる映像の時間の中で、いつもは気に止めることのないフィールドの「余白」に気づくための 30 秒間を映像作家や研究者が記録した映像作品。この映像シリーズは、今後も継続して制作し、YouTube で公開していく。



① 《30 Second Windows 001 : Morogoro, Tanzania by Kenichi Sawazaki》

Date : 8 August 2017 | Location : Morogoro, Tanzania | Filmed by : Kenichi Sawazaki

② 《30 Second Windows 002 : Ouagadougou, Burkina Faso by Kenichi Sawazaki》

Date : 27 October 2018 | Location : Ouagadougou, Burkina Faso | Filmed by : Kenichi Sawazaki

③ 《30 Second Windows 003 : Kongoussi, Burkina Faso by Kenichi Sawazaki》

Date : 28 October 2018 | Location : Kongoussi, Burkina Faso | Filmed by : Kenichi Sawazaki

④ 《30 Second Windows 004 : Huế, Vietnam by Kenichi Sawazaki》

Date : 16 March 2017 | Location : Huế, Vietnam | Filmed by : Kenichi Sawazaki

⑤ 《30 Second Windows 005 : Huế, Vietnam by Kenichi Sawazaki》

Date : 20 March 2017 | Location : Huế, Vietnam | Filmed by : Kenichi Sawazaki

⑥ 《30 Second Windows 006 : An Bang Village, Central Vietnam by Ueru Tanaka》

Date : 28 April 2019 | Location : An Bang Village, Central Vietnam | Filmed by : Ueru Tanaka

⑦ 《30 Second Windows 007 : Kongoussi, Burkina Faso by Kenichi Sawazaki》

Date : 29 October 2018 | Location : Kongoussi, Burkina Faso | Filmed by : Kenichi Sawazaki

⑧ 《30 Second Windows 008 : Kongoussi, Burkina Faso by Takao Shimizu》

Date : 31 May 2019 | Location : Kongoussi, Burkina Faso | Filmed by : Takao Shimizu

⑨ 《30 Second Windows 009 : Rift Valley, Kenya by Kenichi Sawazaki》

Date : 13 October 2016 | Location : Rift Valley, Kenya | Filmed by : Kenichi Sawazaki

### (3) 記録映像シリーズ 《In a Single Breath》

できるかぎり「一息＝ワンショット」で撮影されたアジア・アフリカでのフィールド調査の一場面を紹介する映像作品。ロングショットで記録されるフィールドの風景には、足音や草木の鳴る音、村人たちの何気ない会話、あるいは土に触れる感触など、さまざまな質感をともなうイメージが溢れている。この映像シリーズは、今後も継続して制作し、YouTubeで公開していく。

① 《In a Single Breath 001 : Uluguru Mountains in Tanzania》 HD, 8分30秒

Date : 13 October 2016 | Location : Rift Valley, Kenya | Filmed by : Kenichi Sawazaki



#### (4) 記録映像《貧困の連鎖を断ち切る ～ベトナム・フエ市での学習支援～》

日本・ベトナム | HD | 19分30秒 | 2018年

出演：田中樹、高木佳子ほか | 撮影／編集：澤崎賢一 | 企画：田中樹 | 写真提供／字幕翻訳：高木佳子

地域協力者：Ho Tan Duc、Phu Beyes | ナショナル・スタッフ：Huynh Thi Thuy Tien

制作：総合地球環境学研究所 | 助成(映像)：公益財団法人トヨタ財団

環境農学、地域開発論を専門とする田中樹のベトナムでのフィールド調査に同行し、特に学習支援活動を記録した映像作品。ベトナム・フエ市でフエ大学の学生が貧困地域に暮らす子供たちに授業を行う様子や、貧困の連鎖を断ち切るべく活動を長期的に継続する研究者のインタビューなどが記録されている。



#### (5) 記録映像《怒田集落 -地域の「ための」民謡づくり- 「たらしめことば」の語りとアートの実践》

日本 | HD | 14分 | 2019年

作る人(講師・アーティスト)：にしもと ひろこ(歌うたい)、山口 恵子(俳優・演出)、川那辺 香乃(コーディネーター)

| 聞きたい人(研究者)：市川 昌広(高知大学地域協働学部教授)、石山 俊(国立民族学博物館プロジェクト研究員)、

三村 豊(総合地球環境学研究所センター研究員)、伝えたい人(地域協力者)：氏原 学、田畑 勇太

協力：高知大学、怒田集落のみなさん | 主催：総合地球環境学研究所 | 共催：NPO 法人ぬた守る会、高知大学

助成：平成30年度 第68回高知県芸術祭助成事業「KOCHI ART PROJECT 2018」

映像制作：一般社団法人リビング・モンタージュ | 助成(映像制作)：公益財団法人トヨタ財団

建築学を専門とする三村豊らの高知県の怒田集落での活動を記録した映像作品。

約40世帯、70名ほどの人々が暮らす高知県の大豊町にある怒田地区。ここでフィールドワークを行ってきた総合地球環境学研究所の三村豊らが、ミュージシャンや劇作家や高知大学の学生らと共に、地域の記録を掘り起こすための歌、「屋号歌」作りを行うワークショップの様子を記録した。



### 3. 学会、講演会、展示会、ウェブサイトでの映像活用の事例

2.の映像作品は、総合地球環境学研究所が企画する講演会、日本国際地域開発学会、タンザニアで開催された農業祭での展示上映、こども向けの講演会など、多様な場面で活用された。



#### (1) 学会・講演会

① 田中樹「地球研×ナレッジキャピタル-おいしい地球環境学-「第1回タンザニアでスパイスの村をつくろうー貧困問題と環境荒廃に向き合う知恵ー」」主催：総合地球環境学研究所、グランフロント大阪、大阪、2017年11月24日



② 田中樹・須田征志・澤崎賢一・中村洋「熱帯山間地域の脆弱環境における暮らしの向上と生態環境保全の両立—タンザニアでの香辛料作物栽培をめぐる経験則以上学術研究未滿の試行から—」日本国際地域開発学会 2017 年度秋季大会、高知大学、2017 年 12 月 2 日



③ 清水貴夫「子ども大学よこはま 第 5 回「アフリカのストリートの子どもたち」」横浜市技能文化会館、横浜、2018 年 2 月 24 日

④ 三村豊「「たらしめことば」の記録と民謡づくりの実践——高知県長岡郡大豊町怒田集落の事例」『先端技術と風土の未来 — 知識と記憶継承の可能性をひらくためのテクノロジー的介入と未来像の予兆 —』主催：総合地球環境学研究所、琉球大学 50 周年記念館、沖縄、2019 年 6 月 2 日

## (2) 展示会

⑤ 「ナネナネ(農業祭)」モロゴロ州ナネナネ会場ソコイネ農業大学展示施設内、2018 年 8 月 1 日～8 日



## (3) ウェブサイト

「暮らしのモンタージュ」のウェブサイトへリンクするかたちで、田中樹と清水貴夫の活動を紹介するウェブサイトを作成の一部として制作した。サイトでは、彼らのインタビュー映像も掲載した。

### ① 田中樹の活動紹介



[https://livingmontage.com/educational-resource/ueru\\_tanaka/](https://livingmontage.com/educational-resource/ueru_tanaka/)

### ② 清水貴夫の活動紹介



[https://livingmontage.com/educational-resource/ueru\\_tanaka/](https://livingmontage.com/educational-resource/ueru_tanaka/)

## 4. 口頭発表、連載記事など

ワークショップや研究会などで本研究の成果を口頭発表した。また、本研究を発展させたものとして、現在、京都市立芸術大学大学院にて博士論文を準備中で、その審査でも活動を発表した。さらに、ウェブマガジン「シネフィル」にて、フィールド調査での出来事を一般向けに綴った連載記事を執筆した。

### (1) 口頭発表

- ① 澤崎賢一「『暮らしの目線』に見るフィールド研究の感性—映像メディアを活かす超学際研究の表現系の探求」、第 1 回 地球研・北大 TD VISUALIZATION ワークショップ、北海道大学、2017 年 1 月 31 日
- ② 澤崎賢一「『暮らしの目線』に見るフィールド研究の感性—映像メディアを活かす超学際研究の表現形の探究—」トヨタ財団研究助成プログラム オープンワークショップ「社会の新たな価値の創出をめざして」、早稲田大学、2018 年 4 月 14 日

- ③ 澤崎賢一「知の余白と感性のモニタージュ-映像表象の学際的活用のアナザーモデルの研究-」京都市立芸術大学、京都、2019年1月23日
- ④ 澤崎賢一「研究者とフィールドの「あいだ」で映像メディアを活用した新たな創造性」京都精華大学アフリカ・アジア現代文化研究センター キックオフ・ミーティング、京都精華大学、2019年6月21日

**(2) ウェブマガジン「シネフィル」での連載記事**

ウェブマガジン「シネフィル」にて、フィールド調査での出来事を一般向けに綴った連載記事「暮らしのモニタージュ」を執筆した。アジア・アフリカ各地の研究者との旅程を、撮影者のまなざしによってテキストと写真で一般向けに綴ることで、フィールドの潜在性を探る試み。

- ① 澤崎賢一「第1回 “ケニア、マサイの集落へ”」シネフィル、2017年12月12日
- ② 澤崎賢一「第2回 “ケニア、地熱発電とマサイの暮らしの変化1,2”」シネフィル、2018年1月5日, 14日
- ③ 澤崎賢一「第3回 “ブルキナファソ、首都ワガドゥグにて”」シネフィル、2018年3月3日
- ④ 澤崎賢一「第4回 “ブルキナファソ、カッセーナにて”」シネフィル、2018年4月7日
- ⑤ 澤崎賢一「第5回 “ブルキナファソ、チャパロと優雅な時間”」シネフィル、2018年8月16日
- ⑥ 澤崎賢一「第6回 “ブルキナファソを喰う!”」シネフィル、2019年2月5日



ウェブマガジン「シネフィル」  
<http://cinefil.tokyo>

**5. 調査研究活動**

タンザニア・ブルキナファソ・ベトナムで、田中樹と清水貴夫のフィールド調査に同行し、彼らの活動を暮らしの目線から映像で記録した。記録した映像は、「2. 「暮らしの目線」でフィールド調査を記録した映像作品の制作」(p10-13)に示した成果物、および今後制作を計画しているアート作品や映画に利用される予定である。

- ① タンザニア：田中樹と共に、屋敷林にバニラ栽培を織り込むことで、暮らしと森の資源保全機能を共存させる活動を映像で記録(JICA 草の根技術協力事業の一環でもある)した。ウルグル山域・ザンジバル、2017年8月6日-18日
- ② ブルキナファソ：清水貴夫と共に、「ストリート・チルドレン」に関する調査、コングシの農村調査、映像作品制作のための撮影を行った。ワガドゥグ市など、2018年10月25日-11月10日
- ③ ベトナム：田中樹と共に、在地生業の形成、資源・生態環境保全、貧困地域での学習支援の視察と撮影。フエ市および周辺農村、ダナン市・ホイアン市、2019年5月24-30日



## 4. 今後の課題と展開

### 1. 今後の課題

前述のとおり実施者は、アジアやアフリカ各地で研究者のフィールド調査を「暮らしの目線」から記録し、「在来地の潜在性」を顕在化させる幾多の映像作品を制作してきた。それら映像作品群がもたらした成果は、各研究者の論文などの成果を補足する以上の訴求力、あるいは全く異なる視点から問題を見るための機会を生み出し、一定以上の成果を残した。これまでの実践において、多様性を重視して、できるだけ多くの研究者の調査に同行し、「在来地の潜在性」をまるごと記録しようとしてきたが、以下にいくつかの課題が残された。

#### (1) 今回、調査を記録した研究者や地域と、より深い関係性の構築

「在来地の潜在性」と一言で表しても、対象や地域ごとに内容は実に多様で、まるごとその「潜在性」を捉え共有することは不可能である。ゆえに、発展的な研究としては、今回調査を記録した研究者や地域とより深く関係性を築く過程で、継続的に「潜在性」を表現するためのアウトリーチを考案する必要があるのではないかと考える。

#### (2) 映像メディアでフィールドの感性を表現するための方法論の理論化

研究者や地域を限定することで深い関係を築く過程で、“どのように”映像を駆使してフィールドの感性を表現するか、その方法論の理論化が必要ではないかと考える。そのために、映像メディアが生み出す独自性や今日的な特徴を鑑みる必要があるのではないかと考える。

#### (3) 「暮らしのモンタージュ」のプロジェクト全体像が伝わる場を演出

本研究の成果は、研究成果のアウトリーチとして非常にユニークなものであると言えるが、その全体像が見えにくいという点も反省される。ゆえに、プロジェクト「暮らしのモンタージュ」の活動の全体像が伝わる場を演出する必要があるのではないかと考える。

### 2. 今後の展開

以上の課題をふまえて、本研究の今後の展開として、以下の内容で調査・活動を進めていきたい。

- (A) タンザニアでバナラ・プロジェクトを展開する田中樹（環境農学、地域開発論）とブルキナファソで参与観察などを行う清水貴夫（文化人類学、アフリカ地域研究）のフィールド研究の場と機会の提供を受ける。彼らとの関係を築く過程で、彼らのキャラクターや調査手法などの特徴をうまく捉えた表現手法を検討していく。
- (B) フィールドの感性を捉える方法論を検討するために、カメラを介してこそ生まれる独特な関係性に着目したい。その関係性とは、研究の当事者でもなく、かつ個々の課題に対して無関係であるわけでもない、いわばウチでもソトでもない「あいだ」のまなざしが生み出す創造的な関係性である。その関係性の今日的な特徴は、多様なまなざしを多様なまなざしにシェアしてゆく近年の映像機器（スマホや小型カメラ）の小型化や情報革命（SNSの発達など）で見られる映像メディアの「軽やかさ」だろう。この映像メディアを介する創造的な関係性が、学術研究の専門領域では扱いきれない断片＝「知の余白」に光を当て、従来の学術研究では扱うことのできなかつた人間社会が抱える諸問題の解決や未来社会の形成に向けた潜在性を垣間見せることに繋がると考える。
- (C) プロジェクト「暮らしのモンタージュ」の活動の全体像が伝わる場を演出するために、2020年度に展覧会と研究会の同時開催を企画できるよう準備を進めていきたい。「人類学的観光」をキーワードにした展覧会として澤崎賢一個展『知の余白と感性のモンタージュ』を一般社団法人リビング・モンタージュ主催により京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAにて開催する。また、展覧会と同時に「研究者とフィールドの「あいだ」で映像メディアを活用した新たな創造性」についての研究会を開催したい。

## 5. 実績一覧

### 1. プロジェクト「暮らしのモンタージュ」の設立、および公式 YouTube の開設

一般社団法人リビング・モンタージュ設立、およびプロジェクト「暮らしのモンタージュ」の発足
プロジェクト「暮らしのモンタージュ」公式ウェブサイトの公開 ( <a href="http://livingmontage.com/">http://livingmontage.com/</a> )
プロジェクト「暮らしのモンタージュ」公式 YouTube の公開

### 2. 「暮らしの目線」でフィールド調査を記録した映像作品の制作

映像作品シリーズ《LIVES as one's landscape》
映像作品シリーズ《30 Second Windows》
映像作品シリーズ《In a Single Breath》
記録映像《貧困の連鎖を断ち切る ～ベトナム・フェ市での学習支援～》
記録映像《怒田集落 -地域の「ための」民謡づくりー「たらしめことば」の語りとアートの実践》

### 3. 学会、講演会、展示会、ウェブサイトでの映像活用の事例

<b>【学会・講演会】</b>
田中樹「地球研×ナレッジキャピタル-おいしい地球環境学-「第1回タンザニアでスパイスの村をつくろうー貧困問題と環境荒廃に向き合う知恵ー」 グランフロント大阪, 大阪, 2017年11月24日
田中樹・須田征志・澤崎賢一・中村洋「熱帯山間地域の脆弱環境における暮らしの向上と生態環境保全の両立ータンザニアでの香辛料作物栽培をめぐる経験則以上学術研究未満の試行からー」、日本国際地域開発学会 2017年度秋季大会、高知大学、2017年12月2日
清水貴夫「子ども大学よこはま 第5回「アフリカのストリートの子どもたち」 横浜市技能文化会館、横浜、2018年2月24日
<b>【展示会】</b>
「ナネナネ(農業祭)」モロゴロ州ナネナネ会場ソコイネ農業大学展示施設内、2018年8月1日～8日
<b>【ウェブサイト】</b>
プロジェクト「暮らしのモンタージュ」公式ウェブサイト
清水貴夫の活動紹介
田中樹の活動紹介

### 4. 口頭発表、連載記事など

<b>【口頭発表】</b>
澤崎賢一「『暮らしの目線』に見るフィールド研究の感性ー映像メディアを活かす超学際研究の表現系の探求」、第1回 地球研・北大 TD VISUALIZATION ワークショップ、北海道大学、2017年1月31日
澤崎賢一「『暮らしの目線』に見るフィールド研究の感性ー映像メディアを活かす超学際研究の表現形の探究ー」トヨタ財団研究助成プログラム オープンワークショップ「社会の新たな価値の創出をめざして」、早稲田大学、2018年4月14日
澤崎賢一「知の余白と感性のモンタージュ-映像表象の学際的活用のアナザーモデルの研究-」京都市立芸術大学、京都、2019年1月23日
澤崎賢一「研究者とフィールドの「あいだ」で映像メディアを活用した新たな創造性」京都精華大学アフリカ・アジア現代文化研究センター キックオフ・ミーティング、京都精華大学、2019年6月21日
<b>【連載記事】</b>
澤崎賢一「暮らしのモンタージュ」第1回「ケニア、マサイの集落へ」シネフィル、2017年12月12日
澤崎賢一「暮らしのモンタージュ」第2回「ケニア、地熱発電とマサイの暮らしの変化 1,2」シネフィル、2018年1月5日、14日
澤崎賢一「暮らしのモンタージュ」第3回「ブルキナファソ、首都ワガドゥグにて」シネフィル、2018年3月3日
澤崎賢一「暮らしのモンタージュ」第4回「ブルキナファソ、カッセーナにて」シネフィル、2018年4月7日
澤崎賢一「暮らしのモンタージュ」第5回「ブルキナファソ、チャパロと優雅な時間」シネフィル、2018年8月16日
澤崎賢一「暮らしのモンタージュ」第6回「ブルキナファソを喰う！」シネフィル、2019年2月5日

## 5. 調査研究活動

田中樹(地球研)と共に、屋敷林にバニラ栽培を織り込むことで、暮らしと森の資源保全機能を共存させる活動を記録(JICA 草の根技術協力事業の一環でもある)、ウルグル山域・ザンジバル(タンザニア)、2017年8月6日-18日
清水貴夫(地球研)と共に、「ストリート・チルドレン」に関する調査、コングシの農村調査、映像作品制作のための撮影。ワガドゥグ市など(ブルキナファソ)、2018年10月25日-11月10日
田中樹(地球研)と共に、在地生業の形成、資源・生態環境保全、貧困地域での学習支援の視察と撮影。フェ市および周辺農村、ダナン市・ホイアン市(ベトナム)、2019年5月24-30日

## 6. その他、「暮らしのモニター」に関連する活動

<b>【調査研究活動】</b>
田中樹(地球研)とペノワ・アザール(フランス国立社会科学高等研究院)らと共に、地熱発電開発のもとでの牧畜民社会(居住、文化、生業)の変容に関するフィールド調査、ケニア発電会社(KenGen)の地熱発電所施設の見学、これらのフィールド活動の学術映像の撮影。リフトバレー州(ケニア)、2016年10月8-15日
清水貴夫(地球研)らと共に、「ストリート・チルドレン」に関する調査、カッセーナ集落の伝統家屋や住まい方の変容と継承の様相のアーカイブ、映画制作のための撮影。ワガドゥグ市など(ブルキナファソ)、2016年12月9日-24日
阿部健一(地球研)とエゴ・レモス(ミュージシャン)の調査に同行し、持続可能な農業をもとに持続可能な文化を築いていくためのレモスの活動(パーマカルチャー)を記録。ディリ近郊(東ティモール)、2017年2月18日-25日
水野啓(京都大学東南アジア研究所)のフィールド調査に同行し、かつて東南アジアに広く存在した熱帯泥炭湿地林を再生するための調査を記録。プカンバル、リアウ近郊(インドネシア)、2017年2月26日-3月8日
田中樹(地球研)と共に、在地生業の形成、資源・生態環境保全、貧困地域での学習支援の視察と撮影。フェ市および周辺農村、ダナン市・ホイアン市(ベトナム)、2017年3月15-23日
田中樹(地球研)と共に、屋敷林にバニラ栽培を織り込むことで、暮らしと森の資源保全機能を共存させる活動を記録(JICA 草の根技術協力事業の一環でもある)、ウルグル山域(タンザニア)、2018年6月26日-7月8日
<b>【映像作品の制作】</b>
記録映像《太一さん縄をなう-知内集落にて-》(日本   HD   19分30秒   2016年) 制作: 総合地球環境学研究所 農の匠研究会、撮影/編集: 澤崎賢一
記録映像《なつかしい未来》(日本   HD   77分   2017年) 企画: 総合地球環境学研究所、撮影/編集/制作: 澤崎賢一
記録映像《世界農業遺産へ 東ティモール、エゴ・レモスと共に》(日本・東ティモール   HD   32分   2017年) 制作: 総合地球環境学研究所、撮影/編集: 澤崎賢一
記録映像《フィールドの感性 -若手研究者の活動記録 2016年~2017年》(日本   HD   19分30秒   2017年) 制作: 総合地球環境学研究所、撮影/編集: 澤崎賢一
記録映像《熱帯泥炭社会プロジェクト》(日本・インドネシア   HD   19分   2017年) 制作: 総合地球環境学研究所、撮影/編集: 澤崎賢一
記録映像《Vanilla Project 2017-2018》(日本・タンザニア   HD   4分   2018年) 映像制作: 一般社団法人リビング・モニター (撮影/編集: 澤崎賢一)、JICA 草の根技術協力事業
記録映像《昭和の作庭記—森蘊の足跡を辿る—》(日本   HD   57分   2019年) 企画/制作: エマニュエル・マレス、制作: 一般社団法人リビング・モニター (撮影/編集: 澤崎賢一)
映像教材《みんなで創る地球環境ポスター展》(日本   ) 企画/制作: 総合地球環境学研究所、映像制作: 一般社団法人リビング・モニター (撮影/編集: 澤崎賢一)
映像教材《Humanities on the Ground : Confronting the Anthropocene in Asia》制作: 総合地球環境学研究所、映像制作: 一般社団法人リビング・モニター (撮影/編集: 澤崎賢一)
<b>【映像作品の活用】</b>
地球研オープンハウス 「フィールドで出会う「手しごと」」(総合地球環境学研究所、京都、2016年8月5日)にて、記録映像《太一さん縄をなう-知内集落にて-》を展示上映
「地球研オープンハウス 「泥炭地」のなぞをさぐる！」(総合地球環境学研究所、京都、2017年7月28日)にて、熱帯泥炭社会プロジェクトの記録映像《熱帯泥炭社会プロジェクト》を展示上映
「地球研オープンハウス 「名刺をもって研究者に話しにいこう！にじいろ地球研」(総合地球環境学研究所、京都、2017年7月28日)にて、地球研の若手研究者の活動を紹介した《フィールドの感性 -若手研究者の活動記録 2016年~2017年》を展示上映
記録映像《世界農業遺産へ 東ティモール、エゴ・レモスと共に》を総合地球環境学研究所の iTunesU で一般公開
映像作品《フィールドの感性 -若手研究者の活動記録 2016年~2017年》を総合地球環境学研究所の iTunesU で一般公開
「ナネナネ(農業祭) (モロゴロ州ナネナネ会場ソコイネ農業大学展示施設内、2018年8月1日~8日)にて、記録映像《Vanilla Project 2017-2018》を展示上映
総合地球環境学研究所主催「みんなで創る地球環境ポスター展」(文部科学省新庁舎2階エントランス、東京、2019年5月20日~6月21日)にて、映像教材《みんなで創る地球環境ポスター展》を展示上映
映像教材《Humanities on the Ground : Confronting the Anthropocene in Asia》を総合地球環境学研究所の YouTube で一般公開
記録映像《昭和の作庭記—森蘊の足跡を辿る—》を特設ウェブサイトで公開 ( <a href="https://www.mori-osamu.com">https://www.mori-osamu.com</a> )

発行日：2019年6月28日

発行者：澤崎 賢一

トヨタ財団 2016年度研究助成プログラム

個人研究助成 D16-R-0344

実施報告書

「暮らしの目線」に見るフィールド研究の感性  
—映像メディアを活かす超学際研究の表現形の探究—

